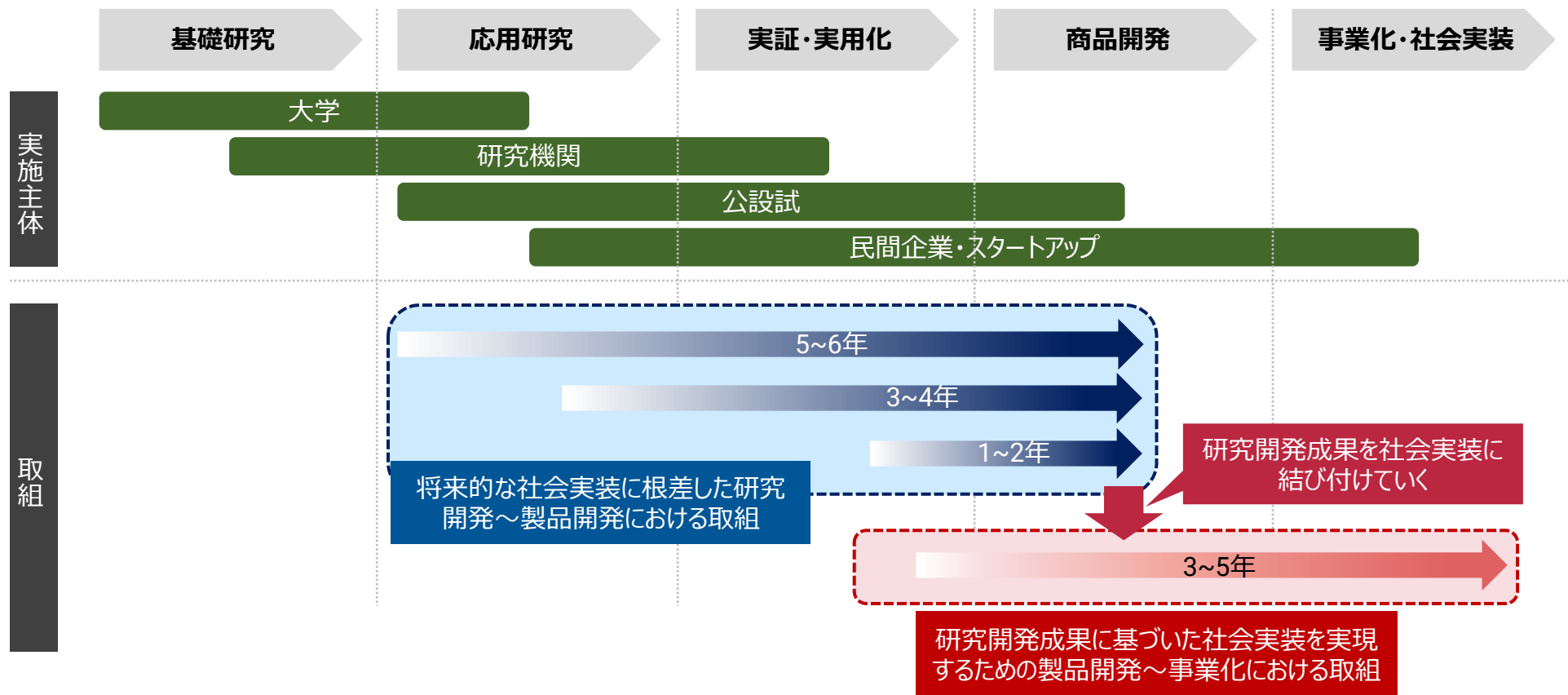


「知」の集積と活用の場 産学官連携協議会 社会実装伴走支援事業 説明資料

「知」の集積と活用の場 産学官連携協議会事務局

社会実装伴走支援事業 コンセプト

- 社会実装伴走支援では、大学・公的研究機関等で基礎から応用程度までの研究開発ステージで生み出された技術やノウハウを、民間企業等の事業化・商品開発等に繋ぎ、事業化を推進する間の取組を推進することを目的とします。
- 商談等を通じて事業化に踏み出した以降の事業拡大の取組は、(本支援終了後も含めて)事業者が自発的に進めていただくことを目指します。



社会実装伴走支援事業 概要

- 5月下旬～6月中旬にかけて募集を行い、約1か月の選定を経て、8月より支援を開始させていただきます。
- 本取組の趣旨を踏まえてご関心をいただける場合は、[サポート希望フォームに必要情報を記入の上、6月19日\(金\)までにご応募](#)ください。

項目	実施内容
位置づけ	大学・公的研究機関等で基礎～応用の研究開発ステージで生み出された技術やノウハウを、民間企業等の商品開発・事業化に繋ぎ、社会実装の達成に向けた取組みを推進する。
支援期間	2026年8月～2027年1月までの約6か月程度を予定 <想定スケジュール> 2026年5月28日～6月19日 支援先募集 ※募集締め切り：6月19日(金) 2026年6月20日～7月31日 支援先選定 2026年8月～2027年1月 支援実施(定期的な打合せ・議論・資料作成等を通じた伴走支援)
支援対象者	「知」の集積と活用の場 産学官連携協議会 会員・研究開発プラットフォーム・研究開発コンソーシアム ※研究開発プラットフォームへの所属有無や研究開発ステージの制約等はありませんが 支援期間中、支援者との議論や検討に向けた取組に主体的・積極的に取り組むことができる方に限ります
応募方法	下記、サポート希望フォーム(Microsoft Forms)に必要項目を記入の上、 6月19日(金)17:00 までに提出 サポート希望フォーム： https://forms.office.com/r/z32uHnhjMQ ※会員登録が済んでいない方は、ウェブサイトから登録をお願いいたします。
留意事項	●資金的補助はありません 本支援には、資金提供は含まれないため、適宜他事業と併せての活用をご検討ください。 ●社会実装の検討・推進の主体は"支援者"ではありません 社会実装の検討・推進に向けては、実施者自身の積極的・能動的な関与が成功の成否を最も左右します。外部コンサルタントが答えを教える/代わりに動いてくれる、というスタンスではなく、支援を活用して自ら検討を前進させることを念頭にご検討ください。 ●単純作業の代行ではありません 本支援は、単純作業の代行(リソース確保)が目的ではなく、実施者では検討が及ばない/専門的な知見・ネットワークを必要としているなど、明確な課題に対して補完的な取組みを行うものであることをご理解ください。

社会実装伴走支援事業 支援を受けるメリット

- 本支援では、半年にわたり専属の支援者派遣を通じて、課題整理や情報提供、商談・マッチング等の総合的なサポートを受けることが可能です。
- その他、有識者に対するプレゼン・フィードバックの機会や、協議会が有するチャンネルを通じた発信機会・資金調達に向けた支援も受けることができます。

伴走支援を受けるメリット

ポイント1

専属支援者(コンサルタント)から半年にわたる支援を受けられる

- 選定された支援対象に対して、伴走支援チームから専任の担当者が伴走支援を行う。
- スポットのな支援ではなく、6か月程度にわたり、課題の整理から対応策の検討・実行まで支援する。

ポイント2

多様な専門性を有した専門支援者からの助言を受けられる

- 特定の産業・技術領域、検討項目に関して専門性を有する専属専門支援者より、助言や連携先紹介等を行う。
- 専任の専門支援者以外にも、事務局や外部機関等と連携し、研究開発プラットフォームの課題や要望に応じた情報提供等を適宜行う。

ポイント3

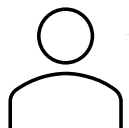
有識者(協議会理事・投資機関等を含む)に対するプレゼン・フィードバックの機会が得られる

- 社会実装伴走支援の中では、農業経営の知見を有する投資機関等を含む有識者等に対するプレゼンの場を設け、検討内容に対するフィードバックをいただく。
- フィードバックの内容を受けて、伴走支援チームが課題解決に向けて支援する。

ポイント4

普及啓発に向けた対外的発信の機会、資金調達に向けた支援を受けられる

- 支援の中で整理した事業構想や成果について、展示会への出展や広報物(ポスター・ウェブサイト)作成等を通して広く発信し、具体的な商談につながる機会が得られる。
- 助成金公募に向けた書類作成等の支援を受けられる。

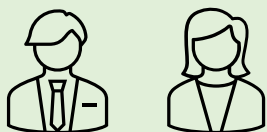


過去の伴走支援を受けた
プロデューサーからの声

- 「技術シーズはあるが何故か事業化検討が進まない状態から、コーディネーターの助言を通じて課題が明確になり、事業化検討の転換点・ブレイクスルーとなった」
- 「有識者・コーディネーターとの議論を通じて、プラットフォーム単独では決して生まれなかったビジネスアイデアが生まれた」
- 「自力ではリーチし難い顧客候補先を紹介してもらうことでネットワークが広がり、実際にいくつかの商談が成立した」など

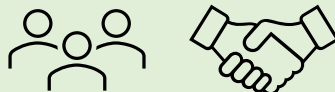
社会実装伴走支援事業 支援内容(例)

- 伴走支援事業では、応募者が目指す姿に向けた検討状況・課題感・支援に対する要望を適切に把握しながら、状況に応じたサポートを行います。
- 支援の具体例として、専門家によるメンタリング、連携先とのマッチング・商談、市場調査・分析、資料作成などの支援が可能です。



専門家による助言

- 特定の業界・技術など専門領域の有識者による助言提供
- ※ 専門領域によっては専門家が不在/助言内容が限られる場合もある



マッチング・商談

- サプライチェーン上の連携先、その他協業先との接点紹介
- 経営者候補人材・組織、資金調達先(金融機関・VC等)、知財専門家の紹介



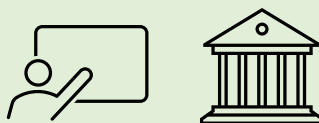
市場調査・分析

- 特定の業界、技術に関する市場動向・技術動向・国策動向等の調査を通じた情報提供
- 情報提供を通じた戦略立案・アイデア出し



資料作成

- 顧客獲得に向けた提案書、ピッチ・商談に向けた資料作成支援
- 内部検討事項の棚卸し、可視化・言語化の支援



ピッチ・資金調達

- 展示会やピッチ等対外的な発信・認知拡大に向けた発信機会の提供
- 資金調達に係る情報提供、申請書作成支援

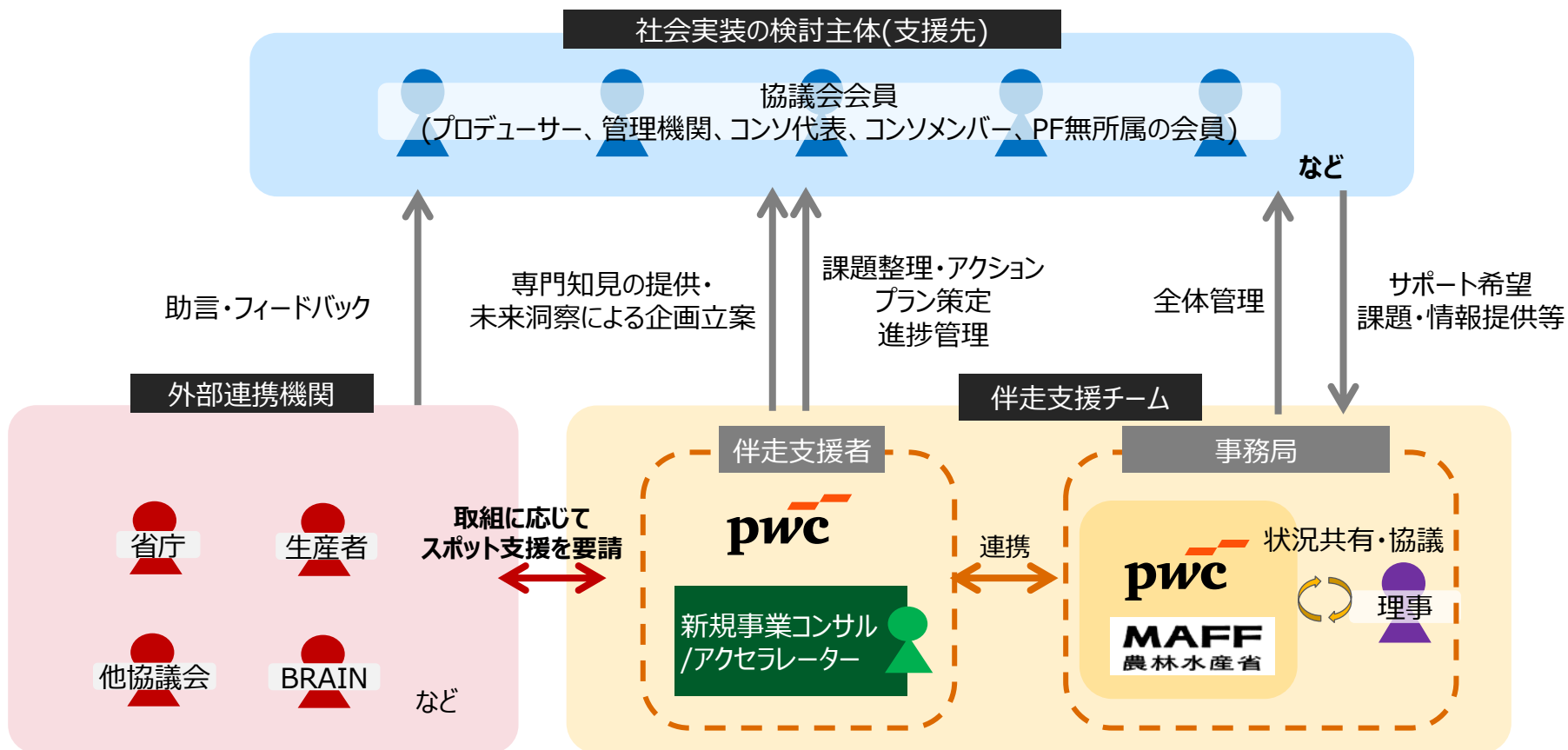


海外展開

- 海外展開に関する情報提供(進出先国・地域の動向調査)
- 戦略策定、ステークホルダー等との接点紹介

社会実装伴走支援事業 体制イメージ

- 支援の中核を担う伴走支援チームは、支援対象者の課題等を継続的に把握しながら、商品化・事業化に向けた検討支援や、扱うテーマや課題に応じた専門人材の派遣、外部支援機関の施策紹介等を行います。
- 本年度は、事業化・技術開発・マーケティング・法規制・知財等の観点で連携が想定される外部機関と柔軟な連携が可能です。



社会実装伴走支援 スケジュール

- 5月下旬～6月中旬にかけて募集を行い、約1か月の選定を経て、8月より支援を開始させていただきます。
- 11月には中間報告として協議会理事へのプレゼンテーションを行っていただくことなども検討します。

内容	2026年								2027年		
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
募集・選定	支援先募集	支援先の募集									
	インタビュー実施		応募者へのインタビュー実施								
	対象者選定			支援先選定	<ul style="list-style-type: none"> 支援先ごとに伴走支援者を派遣し、議論や情報提供を通じて検討を推進 過去の支援ノウハウを生かして、効果的・効率的な支援 						
サポート	サポート実施				サポート実施者派遣・サポート実施						
	理事への報告				理事に対する事業構想のプレゼンを行い、フィードバックを受ける		中間報告		支援振り返り		
取纏め	実施結果振り返り・取纏め							支援先より伴走支援事業の振り返り・コメントをいただく		事務局によるサポート結果取り纏め ノウハウ整理	

	#	質問	回答
位置づけ	1	・伴走支援事業について、背景と目標をもう少し知りたい。 支援を通じて、「知」の集積と活用場の産学官連携協議会全体として、どの程度事業化されることを計画しているか。	・知の集積から生まれた研究開発成果を事業化・社会実装させていくための支援の仕組みを構築し、数件でも 支援を通じた社会実装事例を生み出す ことが目標。 ・知の集積では、これまで多数の製品・サービスが上市されてきたが、インパクトのあるモデルケースと言える成果は数少ない。 知の集積を代表する成果をより多く創出 していきたい。
	2	・伴走支援における金銭的負担はどの程度か。	・伴走支援への 応募は無料 である。 ・なお、本支援の中で資金的支援は無い為、支援先の取組内容次第(自己負担)となる。 ・※必要に応じて、「知」の集積と活用場の他事業と併せて活用をご検討いただきたい。
応募	3	・昨年度事業化等サポートを受けた場合も応募は可能か。 また、既に事業化されたものはサポート対象外か。	・ 昨年度の支援先もサポート対象内 となる。 ・応募において取組段階の制約は無く、製品・サービスの上市も含め既に事業化されている取組でも、さらなる販路拡大・普及などを目標とする場合は、本支援の対象になる。
	4	・公的資金を獲得していること等は応募条件としてあるのか。	・ 公的資金の獲得有無を条件としていない 。 ※本取組の中で公的資金の獲得に向けた支援も可能である。
	5	・支援対象となる分野は何か。	・農林水産・食品分野に関連する取組であれば テーマを問わずに応募が可能 。
選定	6	・研究開発プラットフォームから応募する場合、応募するテーマは1つに絞った方が良いか。それとも、類似した2つの課題を1つにまとめて応募した方が良いか。	・課題を絞る/合体する必要は無く、 支援を受けたいテーマ単位で申し込み いただきたい。 ・※類似した複数の課題をまとめたほうがよいか迷う場合には、事務局までお問い合わせいただきたい。
	7	・支援対象は何件程度を想定しているのか。	・本年度は 5件程度 を対象として想定している。※応募状況に応じて変更可能性はあり
支援内容	8	・支援先はどのような観点で選定されるのか。	・社会実装への取組姿勢、取組フェーズ、想定インパクト、国策等との整合性などの観点を踏まえて、 事務局と理事と協議の上で総合的に判断 する。
	9	・知の集積以外にも、支援機関、他協議会の類似の取組が存在すると思いますが、それぞれのすみわけあるいは連携はあるのでしょうか。	・事務局による課題、情報提供、商談・マッチング等の 総合的なサポートを受けることが可能 。 ・知の集積が保有するアセットを活用した、会員同士のマッチング、関連機関の紹介・連携等が可能である。また、 他の協議会との連携も想定 している。 ・課題に応じて適切な専属の支援者を配置し、一定期間を伴走的に支援することが可能。
	10	・知的財産権取得に対する支援の予定はありますか。	・ 本支援の主眼は事業化・社会実装 であり、検討の過程で知財取得が必要となった場合、専門家等のご紹介・マッチングなど、関連する支援は検討させていただく。
	11	・自社技術を農水省関連の研究機関(農研機構等)に発信する機会を設けていただきたい。	・本サポートでは 研究開発成果を活用してもらえる企業等の探索・マッチングの支援を含んでいる ため、要望に応じて研究機関へのアプローチも可能である。 ・なお、研究機関への発信については、本支援以外にポスターセッションなどの知の集積が主催する発信・交流イベントも活用いただきたい。

Thank you

© 2026 PwC. All rights reserved. PwC refers to the PwC network and/or one or more of its member firms, each of which is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details.